

『見よ、その日が来る！』 エレミヤ書 23 章 1～8 節 2015.4.26(日)

『私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。主はいつくしみ深い。…主を求めるたましいに。』 哀歌 3:22、25

エレミヤが悔改めを語れば語るほど、民の心は頑なになった。愛する者たちが目の前で滅びの谷底に転がり落ちていくのを見て、どうすれば、呪いから祝福へ、死から命へと回復されるのかを伝えるも、民は聞かなかった。その悲しみと絶望の真ん中で神は語られた…『見よ、その日が来る(5 節)』。神の助けが直接介入する日が来る！

◆神の嘆きの中心は、牧者(イスラエルの王)たちが、苦しみ、疲弊している民を顧みないこと。その無慈悲の代償は大きかった(BC586…当時の王ゼデキヤもその家族も悲惨な結末を見る。神殿も王宮も廃墟となり。愛する祖国は失われた)。神は、民が憎くて裁いたのではない！どうにかして彼らが罪(不信仰・不従順)に気づき、悔い改め、神に立ち返ることを願ったこと。なので神は、裁きと共に救いの預言を告げた。『しかし、わたしは、わたしの群れの残りの者を、わたしが追い散らしたすべての国から集め、もとの牧場に帰らせる…わたしは彼らの上に牧者たちを立て、彼らを牧させる。彼らは二度と恐れることなく、おののくことなく、失われることもない(23:3～4)』。この「神の立てる牧者」こそ真の救い主である。『見よ。その日が来る。…その日、わたしは、ダビデに一つの正しい若枝を起す。彼は王となって治め、栄えて、この国に公義と正義を行う(23:5)。』

◆公義とは、神の恵みの支配、導きや訓練のこと。正義とは、貧しく弱い者への憐れみ、施し、救いそのもののこと！私たち人間の義は、責め・裁き・切り捨てる！神の義は、憐れみ、助け、施す！神の義に飢え渴く者は祝福される(満たされる)のである(マタイ 5:6)。ダビデの祝福と繁栄の大木は根元から切り倒されたが、その切り株から芽が出て、そのタダビデの子孫から救い主(イエス・キリスト)が誕生したのである！2000 年以上も前にキリストが来られたと言うのに、憎み、争い、殺し合うこの世界のどこに平和は実現したというのか？それはクリスチャンの心と生活、その遣わされた家族・社会の中に…である！

◆アッシリヤもバビロンも滅び、ヘルシャもローマ帝国も跡形もなく消失した。2000 年以上経ち、3度も祖国を完全に失ったユダヤ人だけが、何度も回復され、現存している。それは彼らが希望の信仰を持っていたから！彼らは主の約束を聞いた『…それは災いではなく、平安を…将来と希望を与えるためのもの(29:11)』と。この、どんな試練や絶望の中でも、揺るぐことのない希望の信仰は、苦難の中でこそ育まれるもの！私たちにとって「その日」は既に来た。この世に来られ、十字架にかかれ、復活して、今ともいてくださる救い主を仰ぐ者は誰でも、神の正義(憐れみと救い)を信じて喜び、「ここに真の平和がある！」と希望を告げる者となれる！